

## 答 辞

桜の蕾も膨らみ始め、暖かな日差しがそそぐこの頃、春の訪れを感じる季節となりました。

本日は、新型コロナウイルスによる非常事態の中、学長先生を始め、諸先生方、ご来賓の皆様のご臨席を賜り、私たち卒業生のためにこのような心温まる式典を挙げてくださり、卒業生一同心より御礼申し上げます。皆様からいただいた祝福と励ましのお言葉を胸に、新しく始まる人生の第一歩を、大きな夢や希望への向上心とともに踏み出そうと決意いたしました。

二年前の春、私たちは新たな学生生活に、不安と期待が入り交じる気持ちを抱きながら、入学式を迎えました。近年は、新型コロナウイルスの影響もあり、生活や環境が一変する中で不安や戸惑いもたくさんありました。しかし、学外オリエンテーション、グループワークキャンプ、ハロウィン、スポーツ大会といった数多くの行事や、授業、実習、サークル活動といった様々な経験をするのができ、充実した楽しい日々を送ることができました。

特に、実習では現場でしか学ぶことができない子どもたち一人ひとりの発達・特性や、保育者同士の連携や子ども・保護者との関わり方の実際など、短大での学びをより深めると同時にさらに多くの学びを得ることができました。実際に保育を行ってみると、個々の子どもに合った保育や関わり方、臨機応変に対応することなど、とても難しく戸惑うこともたくさんありました。しかし、保育者のアドバイスや助言のもと少しずつ改善し次の行動に活かしていくことで乗り越えることができました。私はこれらの実習を通して、子どもや保護者から信頼される保育者になりたいと強く思うようになりました。

さらに、二年間の学生生活では、学生一人ひとりに寄り添って熱心なご指導を下さる先生方や、同じ夢や目標を持つ仲間に出会うことができました。先生方は、学生が楽しく学べるように試行錯誤し、オンライン上でも友達と意見交換ができるような場を設けて下さったり、講義では自身の貴重な体験談をお話して授業を盛り上げて下さったりなど、どれも印象に残るものばかりです。これらの先生方のお話は今後の人生において大きな支えになると思います。最後まで、私たち学生のために熱心にご指導して下さいましたこと、心より感謝しております。

また、限られた短大生活の中で共に過ごし一つのことにみんなで協力して取り組んだり、嬉しいことや辛い気持ちなどをお互いに共有してくれたりした友人たちに心から感謝しています。本当にありがとうございます。毎日普通に学校に通い、会えることが当たり前なことではないからこそ友人たちと共に過ごした短大生活はかけがえのないものになりました。そんなみんなと、今日で会えなくなると思うと悲しい気持ちでいっぱいです。

そして、卒業を迎えたこの日まで、私たちを支え、見守り続けてくれた家族に心から感謝しています。今の私たちがあるのは、家族が一番近くで夢を応援し、支えてくれたからです。うまくいかないことがあって八つ当たりをしてしまった時も、全て受け止め励ましの言葉をかけてくれたこと、学校生活とはまた違った部分でいつも私たちを支えてくれました。これからは、社会人としての自覚と責任を持ち日々精進していきたいと思っております。本当にありがとうございました。

二年間の学生生活を振り返り、この日を迎えるまでに、家族や友人、地域の方など多くの人の支えがあってここまで来ることができました。これからが私たちにとって本当のスタートです。辛くて自分に負けそうになることもあると思いますが、今まで私たちを支えて下さった方への感謝の気持ちを忘れず、これからも自分らしく目標を持って頑張っていきます。

最後になりましたが、作新学院大学女子短期大学部のこれからの益々のご発展と、学長先生を始め、教職員の皆様、ご来賓の皆様のご健康、在学生の皆様の更なる飛躍を心よりお祈り申し上げ、答辞とさせていただきます。



令和四年三月二十日  
作新学院大学女子短期大学部卒業生代表 岡田 姫來